



一番右が上山氏、一番左が筆者

## 「保育」の原点

41

## 『最後の大阪商人』

上山英介

うえやま ひですけ

## 文 葛西得男

Text by Tokuo Kasai

私の生涯の中で最もお世話になったのが「日本の夏 金鳥の夏」

で有名な大日本除虫菊の上山英介氏、まさに金鳥をこれまでに発展させてきた偉人金鳥の上山前会長です。

残念ながらすでに他界されましたが、私の最大の恩人であります。

昔、大阪には大店の旦那衆がおられ、中之島図書館を寄付されたのは住友財閥の当主、15代住友吉左衛門氏でした。また株取引で財を成した岩本栄之助氏の寄付で建てられたのが大阪市中央公会堂であります。欧米の

視察などを通して富豪たちが私財を投じて公共施設を造るといふ事の重要性を感じて大阪の為を考えた結果の行為だったのでしょう。まさに大大阪でした。富豪たちは目先の利益では無く、長期戦で大阪を日本一の都市にしようと本気で考えた

のでしよう。

そんな最後の大阪の旦那衆の匂いがあるのが上山会長でした。日本の伝統工芸、日本文化にも精通され、大切にされ、若い芸術家、無名のスポーツマン、経営者たちのビッグスポンサーでもありました。事実、上山氏の出資したお金を元に自分の会社を創業、上場企業にまで成長させた経営者たちがたくさんいるのです。本当に懐が深く、若者達にもあたたかい人でした。

今の経営者は短期でものを判断される傾向が強く、100年先200年先の大阪を考えている経営者は少ないと思います。大阪には谷町というところがあり、相撲などスポーツ界でよく使われる「タニマチ」という言葉もここから来ているのだと思います。将来の大阪のために若者を育て未来に投資するという考えが根底にあったのでしょうか。自分の懐具合では無く、目先の利益でも無く、大きな未来に夢を持って

行動していくという感覚は思いつきで根付くものではないと思います。

若い頃に一生懸命に努力をし、世界を見て見識を広げ、やっと養われていく大局観なのだろうと思います。上山さんが育てられた経営者、芸術家、スポーツ選手たちがまた強い大阪を築いていく、そして上山さんを越えていく時に上山さんも天国で喜ばれるのだと思います。

## Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。  
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。  
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松福会 理事長に就任。松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。  
アップリカ葛西 副社長時代に国連UNEP環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

